

日本史 奈良・平安の政変・戦乱まとめ

年	事件名	内容解説
729	1. 長屋王の変	[2. <u>光明子</u>]立后問題をめぐって藤原四子(不比等の四人の子供)と対立。藤原四子は謀反の疑いがあるとしての邸を囲み、妻の吉備内親王と共に自殺させた。
740	3. 藤原広嗣の乱	[4. <u>橘諸兄</u>]が政権を握り、[5. <u>玄昉</u> ・ <u>吉備真備</u>]が聖武天皇に信任されて活躍した時期の出来事。藤原氏が彼らの排除を求めて九州で大規模な反乱を起こしたが、鎮圧された。
757	6. 橘奈良麻呂の変	[7. <u>孝謙天皇</u>]の時代、藤原仲麻呂が光明皇太后と結んで勢力を伸ばすと、橘諸兄の息子が仲麻呂を倒そうとするが、逆に滅ぼされた。
764	8 恵美押勝の乱	孝謙太上天皇が自分の看病をしてくれた[9. <u>道鏡</u>]を寵愛し、仲麻呂が擁立した[10. <u>淳仁天皇</u>]と対立。仲麻呂は危機感を募らせて挙兵するが先制され滅ぼされた。天皇は廃されて淡路に流され、孝謙太上天皇が重祚して[11. <u>称徳天皇</u>]となる。
769	12 宇佐八幡宮神託事件	神託により道鏡を皇位につける事件。[13. <u>和気清麻呂</u>]により妨害された。
780	14 伊治皆麻呂の乱	[15. <u>光仁天皇</u>]の780年、帰順した蝦夷の豪族が[16. <u>多賀城</u>]をおとし入れて焼いた大規模反乱。のちの三十数年にわたって東北地方では戦争が相次ぐ。
785	17 藤原種継暗殺事件	桓武天皇の腹心で[18. <u>長岡京</u>]造営を主導した藤原氏が暗殺される。皇太子早良親王を排除することが目的ともされる。
810	19. 平城太上天皇の変	嵯峨天皇と太上天皇の権力争い。[20. <u>蔵人頭</u>]を設置した嵯峨天皇が迅速な行動を取り、仲成は射殺、太上天皇は出家、薬子は服毒。
842	21. 承和の変	藤原良房が一族の順子(ジュンシ)の息子である道康(ミヤコ)親王を皇太子にするために行った陰謀。皇太子:恒貞(ツネダ)親王は廃され、支持者の[22. <u>伴健岑</u> ・ <u>橘逸勢</u>]は隠岐・伊豆に流された。密告者は在原業平の父:阿保(アホリ)親王。
866	23 応天門の変	大納言[24. <u>伴善男</u>]が左大臣源信(ミナモトノノボ)の失脚を狙って応天門に放火したが発覚して伊豆に配流となった事件。紀夏井も縁座して土佐に流された。事件の処理にあたった良房は有能な他氏を排斥することに成功。良房が正式に摂政となる。
887 ~ 888	25 阿衡の紛議	[26. <u>宇多天皇</u>]が即位にあたって出した勅書には基経を「阿衡」に任じるとしていたが、「阿衡は名ばかりで実職が伴っていない」として基経は政治をみなくなり、起草者:[27. <u>橘広相</u>](チハナノヒロミ)を咎めた。論争に発展したが翌888年、天皇が勅書の非を認め、起草者を罰して収拾した。
901	28 昌泰の変	左大臣:[29. <u>藤原時平</u>]の陰謀。宇多天皇のもう一人の息子であった齊世(トキヨ)親王は右大臣[30. <u>菅原道真</u>]の娘婿であった。時平は右大臣を失脚させるため、齊世親王が即位しようとしていると醍醐天皇に讒言し、大宰府に左遷させた。

935 ～ 941	31 承平・天慶の乱	32 平将門の乱	関東地方での桓武平氏が反乱。一族の平国香を殺害し、新皇を称して関東諸国の大半を支配するも、[33. <u>藤原秀郷</u>]と[34. <u>平貞盛</u>]が鎮圧。
		35 藤原純友の乱	元伊予掾が瀬戸内海で反乱。東は淡路、西は大宰府を襲撃するが、[36. <u>小野好古</u>]、[37. <u>源経基</u>]らにより鎮圧。
969	38 安和の変	藤原[39. <u>実頼</u>]の時代。源高明を失脚させた事件。「源高明が娘婿である為平〈タヒラ〉親王を擁立して、皇太子；守平〈ミツナ〉親王(後の円融天皇)の廃立を図っている」と[40. <u>源満仲</u>]〈ミツナ〉が密告。事件後、藤原氏北家の勢力は不動のものとなり、その後は、ほとんどつねに、摂政・関白がおかれた。	
1019	41 刀伊の入寇	沿海州の女真人が九州北部に来襲するも、太宰権帥[42. <u>藤原隆家</u>]の指揮のもと九州の武士たちが撃退。 <u>九州に武士団が形成されつつあったことの証明</u> 。	
1028	43 平忠常の乱	上総介、武蔵国押領使となった平氏の反乱。1028年に反乱を起こして房総を占拠。[44. <u>源頼信</u>]が鎮圧して、源氏は東国進出。関東の平氏は衰退した。	
1051 ～ 1062	45. 前九年合戦	陸奥で[46. <u>安倍頼時</u>]が反乱。陸奥守・鎮守府将軍[47. <u>源頼義</u>]が息子の源義家、清原武則の協力で平定。	
1083 ～ 1087	48. 後三年合戦	清原氏の相続争いへ[49. <u>源義家</u>]が介入。勝者となった[50. <u>清原清衡</u>]が奥州藤原氏の栄華を築く。源氏は武家の棟梁として着目されるようになる。	